

分科会活動報告

2008年4月9日

特定非営利活動法人 事業継続推進機構(BCAO)
情報システム・バックアップオフィス分科会

※ 本資料の文責は分科会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

1. 分科会活動目的

◆ 情報システム分科会

- 国内外の個人及び企業、政府その他の団体における事業継続を支える情報システムの現状及び課題の調査分析と、課題解決に向けた各種研究活動の推進

◆ バックアップオフィス分科会

- 国内外の企業において事業継続を支えるバックアップ・オフィスの現状調査分析を通じ、必要な機能／要素を洗い出し、それに対する現状の問題点／課題解決に向けた各種研究活動を推進

※共同開催について

設立当初は「バックアップオフィス分科会」の活動人員が数名と少なかったため、「情報システム分科会」と合同で開催して参りましたが、両分野の対策には共通の課題や連携して取り組むべき事項が多く、意見交換や情報共有を行なうことが双方に利する事が多く出てきたために、現在に至るまで一体となり活動してきております。

2. 分科会メンバー構成

◆分科会メンバー構成（2008年3月31日時点）

- 座長：伊藤 毅（株式会社富士通総研）
- 副座長（情報システム分科会）：大塚 純一（日本アイ・ビー・エム株式会社）
- 副座長（バックアップオフィス分科会）：関山 雄介（大成建設株式会社）
- 情報システム分科会委員（6. 分科会委員リスト参照）
- バックアップオフィス分科会委員（6. 分科会委員リスト参照）
- 事務局：向井 健太郎（富士通株式会社）、砂原 健利（富士通株式会社）

情報システム分科会委員	46名
バックアップオフィス分科会委員	18名
座長、事務局	3名
分科会メンバー計	67名

➢アンケートタスクフォースメンバー

- ・土橋 直通（I&K・ケイ・リスクコンサルティング株式会社）
- ・関山 雄介（大成建設株式会社）

➢小冊子リーダー

グループ名	リーダー	サブリーダー
Aグループ (冒頭説明ページ、BCAO紹介ページ等)	長嶋 和広（株式会社ワビ シア・ガイブズ）	池田 竜隆（株式会社ワビ シア・ガイブズ）
Bグループ (バックアップオフィスに関わる説明部分)	羽仁 洋（大和ハウス工業株式会社）	植村 明生（みずほ証券株式会社）
Cグループ (情報システムに関わる説明部分)	木村 義昭（日本ビズネスコンピュータ株式会社）	高屋 正裕（日本電気株式会社）

※ 本資料の文責は分科会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

3. 開催実績（1 / 2）

◆ 分科会の開催（全23回）

	日付	幹事		出席人数	検討事項
		開催場所	議事録作成		
第1回	2006/05/10	豊島区立勤労福祉会館	富士通	14名	副座長の選出、分科会の進め方、活動内容の検討
第2回	2006/06/07	富士通 ソリューションスクエア（蒲田）	富士通	13名	副座長の選出、分科会の進め方、活動内容の検討
第3回	2006/07/05	日本アイ・ピー・エム 箱崎事業所	日本アイ・ピー・エム	15名	活動目標・テーマの検討
第4回	2006/08/02	大成建設 本社ビル（新宿）	富士通	13名	アンケートの検討
第5回	2006/09/15	富士通 ソリューションスクエア（蒲田）	損保ジャパン リスクマネジメント	15名	アンケートの検討
第6回	2006/10/04	日本電気 森永プラザビル（田町）	日本電気	17名	アンケートの検討
第7回	2006/11/01	日立製作所 日本生命丸の内ビル（東京）	日立製作所	14名	プレゼン発表、アンケートの検討、小冊子の検討、初級テキストの作成
第8回	2006/12/06	富士通 ソリューションスクエア（蒲田）	富士通	18名	プレゼン発表、小冊子の検討、初級テキストの作成
第9回	2007/01/11	富士通 ソリューションスクエア（蒲田）	富士通	17名	プレゼン発表、小冊子の検討、初級テキストの作成
第10回	2007/02/08	日本アイ・ピー・エム 箱崎事業所	日本アイ・ピー・エム	15名	プレゼン発表、小冊子の検討
第11回	2007/03/08	大成建設 本社ビル（新宿）	富士通	11名	小冊子の検討、活動報告書の検討

3. 開催実績（2 / 2）

◆ 分科会の開催（全23回）

	日付	幹事		出席人数	検討事項
		開催場所	議事録作成		
第12回	2007/04/05	富士通 ソリューションスクエア（蒲田）	損保ジャパン リスクマネジメント	11名	中間活動報告書の作成 アンケート分析の検討、小冊子の検討
第13回	2007/05/10	シーエーシー 本社（箱崎）	ワビリアーカイズ	16名	プレゼン発表、アンケート分析の検討、 プレゼンテーマの検討
第14回	2007/06/07	富士通 ソリューションスクエア（蒲田）	富士通	15名	プレゼン発表、アンケート集計の検討、 プレゼンテーマの検討
第15回	2007/07/05	ワンビシアーカーカイズ（虎ノ門）	EP・IPEX	14名	プレゼン発表、アンケート事業の検討
第16回	2007/08/02	損保ジャパン・リスクマネジメント（新宿）	電算	12名	プレゼン発表、アンケート事業の検討 今後の課題の検討
第17回	2007/09/06	シーエーシー 本社（箱崎）	大成サービス	17名	プレゼン発表、小冊子の検討
第18回	2007/10/04	アイアイジェイテクノロジー（神保町）	日本アイ・ビー・エム	18名	プレゼン発表、小冊子の検討
第19回	2007/11/01	大成建設（新宿）	富士通エクス	19名	プレゼン発表、小冊子の進捗確認
第20回	2007/12/06	富士通 ソリューションスクエア（蒲田）	日本 ビジネスコンピュータ	21名	プレゼン発表、小冊子の進捗確認 今後の進め方の検討
第21回	2008/01/10	日本アイ・ビー・エム 箱崎事業所	みずほ情報総研	17名	プレゼン発表、活動報告書の検討
第22回	2008/02/07	シーエーシー 本社（箱崎）	富士通	12名	08年度の活動目的、活動報告書の検討
第23回	2008/03/06	富士通エフ・アイ・ピー（青海）	富士通 IT・AI・BI-	22名	プレゼン発表、活動報告書の検討

※ 本資料の文責は分科会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

4. 活動実績（1 / 4）

◆ 小冊子「企業を守る災害対策・事業継続のすすめ」の作成（1）

➤ 活動のまとめ

2008年2月5日に小冊子がBCAOホームページに登録され、一般の方でも閲覧・ダウンロードできるようになった。（http://www.bcao.org/080205_sashi.pdf）

➤ 活動目的

中堅企業（中小企業）の実際にご担当される方や経営層に事業継続活動上、情報システムやバックアップオフィスの確保の必要性を理解していただく。（BCの普及・啓発）

➤ 活動経緯

日時	アクション
2006/11/01	作成リーダー・役割を明確化
2006/12/06	小冊子の構成・書式・表現・ボリューム等を明確化
2007/01/11	小冊子案に対する検討
2007/02/08	全体構成の見直しおよび案に対する検討
2007/03/08	小冊子案に対する検討
2007/04/05	企業における災害対策のすすめ～両分科会として完成
2007/6/25	理事会報告のうえ、配付
2007/9/6	理事会からの指摘事項について再検討
2007/10/4	分科会としての最終版が完成
2007/12/26	事務局及び役員にて小冊子最終版の承認
2008/2/5	BCAOホームページ上に登録

※ 本資料の文責は分科会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

4. 活動実績（1 / 4）

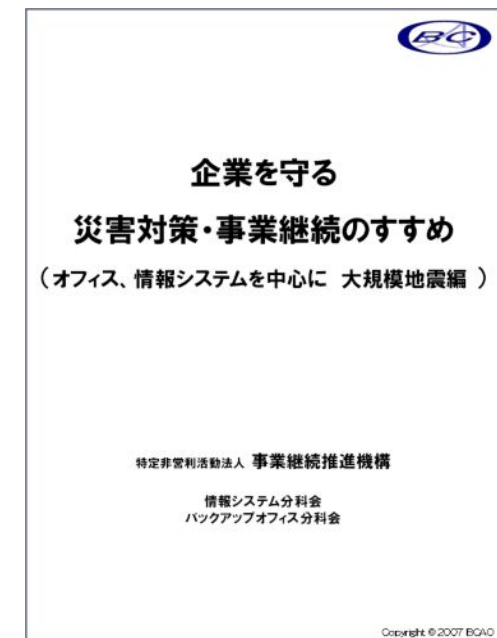
◆ 小冊子「企業を守る災害対策・事業継続のすすめ」の作成

▶ ⁽²⁾小冊子作成のポイント

- ・ 経営層向けに情報システム、バックアップオフィスに対する冊子を作成する。
- ・ 中堅企業や中小企業の経営陣にも読んで頂くことを意識する。
- ・ BCAOへの参画を意識頂けるようにする。

▶ 構成

1. 企業を取り巻くリスクとは？
2. 災害が企業に及ぼす影響は？
3. 災害時の事業継続の必要性
4. 災害発生時、復旧すべき業務とは？
5. 大規模地震に見舞われるとどのようなことが起きますか？
6. 大規模地震に対してどのような対策が必要でしょうか？
7. まとめ
8. BCAOのご紹介



4. 活動実績（2 / 4）

◆ プレゼンテーションの実施（1）

▶ 活動目的

BCに関する情報の共有・新たな気づきを目的とし、分科会委員による自社商品のPR、取り組み事例等のプレゼンテーションを実施

No	日付	タイトル	発表者	概要
1	2006/11/01 第7回会合	BC/DRの ソリューションご紹介	長嶋 和広 (情報システム分科会) 池田 竜隆 (バックアップ/DR分科会) 株式会社 ワンビシアーカイブズ	当社の事業継続ソリューションをご紹介させて頂きました。当社は1966年より都心から60km以遠の強固な地盤に立地したセンターにおいて、企業システムの重要データ（磁気テープや書類等）を集配送・保全するサービスを展開してまいりました。1985年よりデータセンター事業を展開し、阪神淡路大震災の際に被災した企業の基幹系システムを復旧した事例も紹介させて頂きました。
2	2006/12/06 第8回会合	システムセンター移転 および災害対策システム 構築事例の紹介	山浦 政弘 (情報システム分科会) 日本アイ・ビー・エム 株式会社	ある流通業のお客様における災害対策を考慮したシステムセンター移転と災害対策システムの構築事例のご紹介です。事例のお客様では、システムのビジネスへの関係が年々深まっています。システムの長時間停止は、業務に影響が出るばかりでなく、会社の存続にも影響がおよび可能性があることから、システムインフラの見直しを実施しました。システム停止時間の限られている中でセンター移転および災害対策システムの構築事例をご紹介しました。また、IBMが提供する事業継続に関するサービスをご紹介しました。
3	2007/01/11 第9回会合	災害に対する日立の 取り組みと BCMソリューション	永江 豊 (情報システム分科会) 株式会社日立製作所	日立グループは、情報基盤・基盤技術製品事業を中心に、社会・産業・生活基盤を重点事業分野とする、企業数約800、従業員数約30万人の企業グループである。災害に対しては、創業直後に発生した工場火災を教訓に、再発防止と迅速な消火活動の展開に力を入れてきた。阪神・淡路大震災以降、広域災害も視野に入れ、日立グループ全体で統一的なガイドラインを策定。また、事業継続に先進的な半導体やサービスを手がける企業のノウハウをもとに、日立製作所・各企業がBCP策定に取り組むためのガイドラインを策定中である。更に日立グループのノウハウをお客様に提供するソリューションも計画中である。

※ 本資料の文責は分科会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

4. 活動実績（2 / 4）

◆ プレゼンテーションの実施（2）

No	日付	タイトル	発表者	概要
4	2007/2/8 第10回会合	本社機能移転の選択と判断	川村 丹美 (ハックアップ オフィス分科会) 株式会社シーエーシー	BCP策定またはBCP関連教育に取り組んでいる4社（社名は公表せず）の大規模災害（地震を想定）発生による本社中枢機能ダウンの際の対応方針と、本社中枢機能の移転に関する方針について比較・整理した。4社の業態、ヘッドクォーターが海外にあるかどうか、業務がシステムに依存しているかマンパワーに依存しているかなどにより、発生費用に対する方針や想定する対応内容に大きな違いが見られた。
5	2007/5/10 第13回会合	BCM規格の概要と情報 BCM策定のポイント	山本 匡 (情報システム分科会) 株式会社損保ジャパン ・リスクマネジメント	同社の情報誌「SAFETY EYE (No.29) BCM規格の概要と情報 BCM策定のポイント」を参加者に配布し、本書の掲載内容を中心に発表を行う。まず、英国規格BS25999の概要、第三者認証用規格BS25999-2の動向や発行スケジュール、同規格の活用方法などを説明した。また、情報システムBCMの策定と全社取組み BCMとの連携などについて、掲載内容に経験談を加えて説明し、多数の意見交換がなされた。
6	2007/6/7 第14回会合	事業継続におけるIT部門 の役割	大塚 純一 (情報システム分科会) 日本アイ・ビー・エム 株式会社	IT部門がトップからの命を受け、またはIT部門自らが事業継続検討を開始する場合、どのように進めたらよいか迷うことが良くあります。伝統的にITシステムや施設面のリカバリーを対象とした災害対策 (Disaster Recovery) の検討のノウハウはあったものの、経営的視点に立った事業継続目標の達成にIT部門がどのように貢献できるのか、どのようにトップに報告したらよいかについては必ずしも十分なスキル経験がありません。このプレゼンテーションでは、数々の事例で学んだベストプラクティスをもとに、IT視点で事業継続を検討するにあたって、そのステップ、必ず検討すべきポイント、その解決のヒントを分かりやすくご紹介しました。業種、アプリケーション、ITインフラの違いに関わらず、あらゆる検討プロジェクトで使える進め方、考え方を学んでいただき、もし実際にご担当者になった場合でも安心して検討プロジェクトのリーダとして活躍できること確信していただきたいと思います。
7	2007/7/5 第15回会合	事業継続におけるIT部門 の役割（続き）	大塚 純一 (情報システム分科会) 日本アイ・ビー・エム 株式会社	

※ 本資料の文責は分科会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

4. 活動実績（2 / 4）

◆ プレゼンテーションの実施（3）

No	日付	タイトル	発表者	概要
8	2007/8/2 第16回会合	NECのBC DRソリューション	高屋 正裕 (情報システム分科会) 日本電気株式会社	災害時におけるビジネス継続対策について、事業継続実現を支援するNECのDR（ディザスタリカバリ）ソリューションについてご紹介します。NECのBCサービス体系は企画から設計・構築、運用までをトータルにサポート。また、DRシステムを実現するための実装方式や検討手順を述べます。さらに、ストレージレプリケーション方式等の具体的なDR方式と、これら方式を使用した事例を使って詳細に説明します。
9	2007/10/4 第18回会合	ITサービスにおける 事業継続マネジメント	伊藤 毅 (情報システム分科会) 株式会社富士通総研	富士通総研の考えるBCM全体像のご紹介と、自社へのBCM推進ならびにお客様へのコンサルティングを通じてBCMを推進する上での問題点やポイント（情報システムの復旧順位、情報システムの調査の進め方、RPOの問題、今後の動向（英国規格：PASS77との係わり））に関するプレゼンテーションを実施。分科会出席のご担当者様が抱える問題点や、規格・ガイドラインに対する取組み方法等、率直な意見交換がなされた。
10	2007/10/4 第18回会合	事業継続を考慮に入れた 情報システム運用	内田 浩 (情報システム分科会) 株式会社アイアイジェイ テクノロジー	阪神大震災での経験も踏まえた、ネットワーク障害への備え、運用体制、天災への備え等に関するプレゼンテーション。ネットワーク障害時の影響は広範囲でシステムが長期間停止する傾向がある。定期的なパッチの適用は必須である。身近なところで被災した人間がいる時にコンピュータ関連の復旧作業をやることに対して、若手エンジニアに迷いが出ることもある。人命優先の考え方と情報システムの重要性について、方針のところで明確に述べることが大事だと考える。
11	2007/11/1 第19回会合	様々な業態における 現実的なBCP対応	副田 雄 (情報システム分科会) ニッセイ情報 テクノロジー株式会社	当プレゼンテーションにおいては、生命保険会社及び医療機関において理念形としての検討だけではなく、実施しようとするれば現実的に発生するであろう隘路、障害への対応を踏まえたBCPについて、説明を行った。業務の特殊性をつきつめること、有事の際の人員配置のフィージビリティ、計画の中で定められた体制を平時においても維持するコスト、行政との関係など、業種が異なれば検討する項目も、また、計画自体も異なってくるケーススタディとして研究材料を提供した。

※ 本資料の文責は分科会にあり、BCA0全体の見解ではありません。

4. 活動実績（2／4）

◆プレゼンテーションの実施（4）

No	日付	タイトル	発表者	概要
12	2007/12/6 第20回会合	大成建設のBCP に対する取り組み	関山 雄介 (バックアップオフィス分科会) 大成建設株式会社	事業継続における大成建設の取り組みとして、①「元施工物件の価値の維持・復旧」と「顧客の事業継続への貢献」を重要業務とし、災害が発生した際にその復旧体制を定めた大成建設の自社事業継続計画と、②顧客の事業継続計画の策定に際し、構造体・設備・生産装置等を含めた総合的なファシリティのリスク評価から具体的な減災対策の立案という、事業継続計画の策定支援業務という2つの視点でご説明しました。
13	2008/1/10 第21回会合	IT BCP事例紹介	衣笠 宗彦 (情報システム分科会) 株式会社モア・ イフェクト	一般企業におけるBCP策定活動の事例として、医療関連企業におけるBCP策定プロジェクトの概要を紹介した。内容は、プロジェクト発足の経緯と目的、検討体制、対象範囲の概要、プロジェクトの実施手順、明らかになった脆弱点と対策の概要および今後のとり進め方の概要等である。今回のBCP策定活動の中で、いわゆるBCPとしての対策のほか、日常のIT活動の中にBCの観点を取り込むべきであるという感想を持ったことを強調したい。
14	2008/3/6 第23回会合	Sun Modular Datacenter S20 (Project Blackbox) のご紹介	馬場 寿 様 (外部専門家の招聘によるご発表) サン・マイクロ システムズ株式会社	日本で昨年11月のJapan Tourで実機を公開し、米国では今年1月に製品発表した仮想化データセンターSun MD S20について製品概要をご紹介し、本製品を市場投入した弊社の意図、モジュラー化により従来のデータセンターの概念を変え得る迅速な展開/可搬性/高集積を可能にしたことをご理解頂いた。製品に対するご質問だけでなく、BCを実現するプラットフォームとしての可能性についてもご検討頂き、有益なご意見、ご質問を頂戴した。要求水準の高い日本のBC需要に対応できるかの課題を認識させて頂いたものの、その可能性についても再認識させて頂いた。

・発表内容に関する質疑応答では意見交換等により議論が活発に行なわれている。

4. 活動実績（3／4）

◆ アンケート作成支援と実施・分析

➤ 活動目的

1. 各企業（主に中小企業）におけるBCへの対策状況および問題点を把握し、情報システムおよびオフィス分野における理想的な対策の検討、調査結果に基いた課題・テーマを洗い出し、絞り込みを行なう。
2. 経営者に直接的に気付きを得てもらい、対策が必要であることを啓発する。

➤ 活動経緯

当初はITBO(*)分科会単独でのアンケートを予定していたが、途中、他委員会・分科会でもアンケートの実施を計画する声があがったために、アンケートを検討するタスクフォースを設置のうえ、BCAOとしてのアンケートを実施

日時	アクション
2006/08/02	ITBO分科会によるアンケート項目の検討開始
2006/09/15	アンケートの枠組み・項目内容・調査方法等の概要の検討
2006/10/04	ヒアリング方法・項目を検討のうえ、アンケート案を作成 (この頃、調査・分析委員会、自然災害地域連携分科会でもアンケートの計画があることが判明したため、BCAOとしてのアンケートを検討するタスクフォースが設置)
2006/11/01	アンケートタスクフォース（調整会議）にて検討
2006/02/01	アンケートタスクフォースでの調整の結果、アンケートが完成
2007/02/05	アンケートの実施（BCAO事務局より発送）
アンケート後	ITBO分科会でアンケートを分析。結果をアンケートタスクフォースに報告

(*)情報システム・バックアップオフィス

※ 本資料の文責は分科会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

4. 活動実績（3／4）

◆ 今後のアンケートについて

ITBO分科会としての詳細アンケート・ヒアリングの実施検討

1. BCAOとしてのアンケートから外れるような、より詳細な項目についてのアンケートを実施し、分科会としてのテーマ・提言に向けた基礎データとする。
2. 手法としては、聞きたい項目を定量的と定性的な項目などに分類し、アンケート、ヒアリングを実施する。
3. 項目の設定については、取り組み企業やコンサルタント企業などからレクチャーを受けるなど幅広く検討する。

（BCAOとしてのアンケートについてはアンケートタスクフォース主導の下、連携して進める）

4. 活動実績（4 / 4）

◆BCAO事業継続初級管理者試験用テキスト （ITBO分科会部分）の作成

➤活動経緯

標準化分科会からの要請に基づき、重要リソースへの対策に関わるテキストを作成

➤（4 - 3 重要リソースへの対策のポイント）

P.69：バックアップサイトの対策

- ・バックアップオフィスの準備
- ・バックアップ情報システムセンターの準備
- ・その他バックアップサイトの準備

P.70：情報システムの対策

- ・データやアプリケーション、システムソフトウェアのバックアップ
- ・ネットワークのバックアップ
- ・サーバ等、情報システム基盤のバックアップ
- ・その他必要な対策

P.71：バックアップサイト・情報システム対策における共通課題

- ・復旧計画及び具体的な復旧手順書を作成すること
- ・BCP全体との整合性を確保すること

5. 2008年度の活動目標

◆ 活動テーマ（案）

1. プレゼンテーション発表

07年度に引き続き、BCに関する情報の共有・新たな気づきを目的とし、分科会委員による自社商品のPR、取り組み事例等のプレゼンテーションを実施（分科会内外の専門家によるプレゼンテーションの実施）

2. ITサービス・バックアップオフィスの継続性マネジメント手法に関する調査

分科会委員の知識深耕・最新動向の把握を目的とし、BC、情報システム、バックアップオフィスにする規格／ガイドラインの位置付け、相違点等を調査

- ①「マネジメントプロセス」（戦略の観点）の研究
- ②「具体的な対策プロセス」（対策のオプション、バックアップオフィス）の研究

3. アンケートの実施

ITBO分科会としての詳細アンケート・ヒアリングの実施検討

6. 分科会メンバーリスト（1 / 2）

◆ 座長、事務局（2008年3月31日時点）

No	氏名		会社名
1	伊藤 毅	座長	株式会社富士通総研
2	向井 健太郎	事務局長	富士通株式会社

No	氏名		会社名
3	砂原 健利	事務局	富士通株式会社

◆ 情報システム分科会

No	氏名		会社名
1	五十嵐 健二		株式会社リク・マツダ
2	磯部 秀敏		株式会社中電ソニーAI
3	伊藤 壽朗		株式会社システムコミュニケーションズ
4	内田 浩		株式会社アイティエイケイ
5	大塚 純一	副座長	日本アイ・ビー・エム株式会社
6	加藤 誠		株式会社日立製作所
7	門脇 欣一		TISソリューションズ株式会社
8	川口 正起		大和ハウス工業株式会社
9	衣笠 宗彦		株式会社イー・アイ・エフ
10	木村 公秀		EMCソリューションズ株式会社
11	木村 義昭		日本ビジュアルコミュニケーションズ株式会社
12	久間 司		アイティソリューションサービス株式会社
13	小澤 仁		日本アイ・ビー・エム株式会社
14	小森 國隆		ソフトバンクBB株式会社
15	小山 高美		株式会社電算

No	氏名		会社名
16	近藤 隆一		株式会社富士通IT
17	齋藤 孝行		富士火災海上保険株式会社
18	坂場 俊夫		萩原電気株式会社
19	杉野 弘典		株式会社パリス
20	副田 雄		ニッセイ情報テクノロジー株式会社
21	高橋 良治		株式会社CSKシステムズ
22	高屋 正裕		日本電気株式会社
23	財部 透		ピーエムコンサルティング株式会社
24	武田 昌彦		株式会社DNPファクトリーサービス
25	田野岡 直人		株式会社大栄電機工業
26	田畑 伸吾		日本アイ・ビー・エム株式会社
27	土橋 篤		みずほ情報総研株式会社
28	土橋 直通		イクイリコミュニケーションズ株式会社
29	長嶋 和広		株式会社ワイルド・オブ・ザ・パース
30	中西 弘英		みずほ証券株式会社

※ 本資料の文責は分科会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

6. 分科会メンバーリスト (2/2)

◆ 情報システム分科会 (続き)

No	氏名	会社名
31	中村 全孝	沖電気工業株式会社
32	間 博之	富士通I7・AI・ビ [®] -株式会社
33	羽石 将士	株式会社日立製作所
34	疋田 尚志	株式会社 建設環境研究所
35	藤原 史人	株式会社フ [®] 町化 [®] ティヅ [®] ヲパ [®] ソ
36	古本 勉	株式会社富士通総研
37	本間 直哉	株式会社シーシーソリューションズ
38	前田 耕一	日本エスエス株式会社

No	氏名	会社名
39	松永 文彦	大成建設株式会社
40	村田 圭介	大成建設株式会社
41	森原 徳一郎	銀泉保険コンサルティング 株式会社
42	森本 直子	富士通I7・AI・ビ [®] -株式会社
43	山越 清隆	アビ [®] -ムコンサルティング 株式会社
44	山下 晋也	日本AI・ビ [®] -IL株式会社
45	山本 匡	株式会社損保ソリューションズ
46	吉田 博彦	伊藤忠エクスナ [®] -ト株式会社

◆ バックアップオフィス分科会

No	氏名	会社名
1	池田 竜隆	株式会社ワグ [®] シア [®] -カブズ
2	市村 健一	株式会社富士通総研
3	井上 和仁	有限会社井上企画
4	植村 明生	みずほ証券株式会社
5	笠原 誠	大成サービス株式会社
6	河合 義一	ヒューマンサービス株式会社
7	川村 丹美	株式会社シーイー
8	小林 信郷	大成建設株式会社
9	下吹越 正弘	株式会社内田洋行

No	氏名		会社名
10	関山 雄介	副座長	大成建設株式会社
11	富田 真一		株式会社NTTファシリティーズ
12	中野 秀男		情報技術開発株式会社
13	羽仁 洋		大和ハウス工業株式会社
14	増田 幸宏		早稲田大学 高等研究所
15	三上 上		富士ビロックス神奈川株式会社
16	三友 和雄		大成サービス株式会社
17	山浦 政弘		日本AI・ビ [®] -IL株式会社
18	渡辺 義信		株式会社 建設環境研究所

※ 本資料の文責は分科会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

特定非営利活動法人
事業継続推進機構
情報システム・バックアップオフィス分科会
A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)